

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・当社の夏の企画が当たり、来客数が大幅に増えた。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・8月前半は天候も良く、夏休みで来客数はいつもより多かったが、売上にはつながっていない。ボーナス等は一般の企業ではなかなか厳しいものがあり、買物客の購買にはつながっていない。
	変わらない	一般小売店〔鮮 魚〕（店員） 百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・客の来店頻度が少しずつ減っている。
			お客様の様子	・今年は気温が高かったので、夏物の最終処分が例年以上に売れるのではと予測したが、価格が安くても売上は良くなかった。客の消費に対する姿勢は非常に消極的である。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・生活用品の価格の上昇により、平日に比べ土日の来客数が減少している。ギフトにおいても同様の傾向があり、ギフトセンターでの受注は前年割れとなった。一方、通販、宅配、インターネット等の店頭外での受注は伸びている。また、バーゲンの売上が伸び、クレジットによる買物も前年実績を確保しており、生活防衛意識の更なる高まりがみられる。
		百貨店（営業推 進担当）	販売量の動き	・取組先（メーカー）の商材供給量が減っている。不良在庫リスクを回避するため、生産量を抑えていることが影響している。
		百貨店（企画）	お客様の様子	・売上の減少傾向が続いている。売上点数は前年並みであるが、平均商品単価が下がっており、消費に対する防衛意識が高いことがうかがえる。
		百貨店（業務担 当）	お客様の様子	・前月から今月にかけて夏物の最終処分を打ち出しているものの、客は価格に関係なく、必要のない物は買わない。客の買物に対する姿勢は変わっておらず、最近では「この商品は最近値上げしたのか？」と尋ねる客も増えている。価格に対して神経質な客が増えた。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・今月は前年に比べ営業日が1日多く、差し引くと売上は前年と変わらない。来客数は微減、売上点数も減少、単価が約2%上昇となり、大きな変化はない。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・依然として続いているガソリン高や食料品の単価上昇に伴い、消費者の購買意欲の回復がみられない。先月は良かった衣料品も、今月に入ってかなり厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリ ア担当・店長）	来客数の動き	・タスポのお陰で売上自体は先月と変わらないが、お盆過ぎの涼しさにもかかわらず、デイリー品、雑貨品の売上が伸びていない。全体的に客単価も低く、来客数もあまり変わっていない。
		衣料品専門店 （店員）	来客数の動き	・今年は盆休みが長く、なかなか混雑するほどの集客はなかった。夏物ファイナルセールでそこそこの売上は取れたが、子供服の売上が足を引っ張っている。
		家電量販店（総 務担当）	販売量の動き	・猛暑・北京オリンピックによる特需の反動が出てきた。
		乗用車販売店 （販売担当）	販売量の動き	・6、7月と前年を上回る販売量になり、やや景気が持ち直したかみえたが、今月はほぼ前年並みであった。景気が良くなっているのか停滞しているのか非常につかみにくい状況である。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（統括）	販売量の動き	・8月の燃料油の小売価格は最高値を更新し、客が明らかに燃料油購入を節約していることが、はっきりうかがえる。また、旅館・ホテル関係者からは、車でのファミリーの宿泊旅行が減少し、宿泊が前年に比べ減少しているとの声をよく耳にする。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・とにかくグループ客が減っている。相変わらず厳しい状況が続き、回復の兆しはみられない。
その他飲食の動 向を把握できる 者	お客様の様子	・客がアフターコーヒーを飲まなくなっている。		
観光型ホテル （営業担当）	来客数の動き	・7月からの暑さが8月も続き、運よく台風も無く天候に恵まれたせいも、ビアホールの来客数は先月に続き好調であった。また、学生団体の宿泊予約も予定した数を確保できた。		

	旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・原油高の傾向に大きな変化はなく、それに伴い、法人需要・個人需要共に明るい展望は無い。しかし、現在が底であり、これ以上大きく悪化することはない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・猛暑で近距離のタクシー利用が増えたが、景気は3か月前と変わらない。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・例年、8月は、7月より販売数が落ちるが、今年は割賦販売方式への変更から7月ボーナス時期の特需がなく、客が携帯電話の買換えを限界まで我慢していたため、販売数の増加はないが、落ち込みも極端ではない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設はNHK大河ドラマの効果がかなりあるが、それがないと基本的に景気は後退している。ゴルフ場は相変わらず料金の競争があり、入場者はほとんど変わらない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・原油高で遠距離の客が減るのではないかと危惧したが、来客数は前年を若干上回った。
	美容室（店長）	お客様の様子	・売上は最悪だが、ガソリンが来月から値下げされるため、客の表情が柔らかくなった。
	音楽教室	お客様の様子	・通常は活気のある時期だが、その様子がうかがえない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は猛暑が続き、年配客の多い当商店街では、午前中に買物する客が多かった。また、空調のない店が多く、商品の鮮度の問題で商品を早く冷蔵庫にしまうために、ピークとなる16～18時には店舗の棚から商品がなくなっており、客が買物に来て商品がないという傾向がみられる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・依然として通行量が少なく、買物客が少ない。メーカーもなかなか在庫を持たず注文分しか作らないという守りの体制で、なかなか新しい商品が入ってこない。
	商店街（代表者）	単価の動き	・購買層が年配客ばかりなので、税金、年金問題等の影響を受け、客足が鈍い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏場暑かったせいもあり来客数が少なく、同時に単価も落ちている。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・天候が不順だったこともあり、来客数、売上共に前年に比べ落ち込んだ。
	一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	販売量の動き	・6月から7月にかけて、飲食店の多くが50～100円の値上げを実施した影響に加え、オリンピック観戦による出控え、消費者の消費抑制行動から、飲食業関係は軒並み売上が落ちてきている。盆休みの帰省客による一時的な売上回復も瞬時に終わり、飲食店向けの卸業者もかなり苦戦している。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・来客数も少ないが、購入単価も下がっている。仕入単価は上昇し販売単価は低下しているため、例年に比べ売上は半減である。相変わらず客の買い控えは続いている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・仕入価格の値上がりを転嫁した商品の売行きが悪い。今後もこの傾向が継続する。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・原油価格の高騰により客の購買意欲がなくなっている。価格をアピールしても客はそれほど魅力を感じないようで、プライベートブランド商品を中心に販売し、利益を確保している状況である。
	スーパー（店長）	単価の動き	・商品単価は上昇しているが、1人当たり買上点数が前年比96%と落ち込んでいる。1人でたくさんの物をなかなか買えない状況が出てきている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・中元ギフトの1点単価が前年比94.4%、買上点数は同105.7%となり、1点単価は節約のため下がっているが、買上点数は増加している。連日の猛暑のため健康医療関係や地産地消の果物等の売上は前年比110～120%と伸びている。一方、従来のギフト商品の売上についてはほとんどの商品が前年を5～10%下回っている。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・相変わらず客は食品などの生活必需品のみ購買する傾向が強く、衣料品、住居用品等の買上がかなり少ない。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・買上客数の減少がみられる。郊外型商業施設なので、ガソリン価格の高騰により、車での来客数が減少している。

スーパー（企画担当）	単価の動き	・気温は前年と大差はないが、今年は盆前後の稼ぎ時に激しい雨が降ったことや前年とのお盆商戦の曜日ずれにより、お盆商戦の盛り上がりが一つであった。販売数量は伸長しているものの、相場安による野菜や青物の入荷減、養殖魚・かに類・つなぎの相場高騰による魚介類の値上げが売上に影響した。また、目玉商材の設定に苦慮した加工食品や、猛暑により動きの鈍い菓子、ホームセンター、ドラッグストア等の競合店の影響を受けている雑貨等の不調もあった。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・夏らしい気候で季節の物は比較的動きが良いが、値上げがあった物などは相変わらず停滞している。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ガソリン価格や物価高騰により家計が厳しく、客が出費を控えているためか、盆休み等で帰省する人が減っている。例年売れる大容量の飲料やスナック菓子等の売上が大幅に下がり、8月中旬から売上は鈍化している。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・明らかに価格高騰のあおりを受けており、客は無駄な物を購入せず、低価格の商品を見定め購入している。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・オリンピック需要が終わり、先月は暑かったのでエアコンもかなり売れたが、今月に入りAV関係、エアコンの売上に反動が出た。
乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・猛暑と北京オリンピック、ガソリン代の高騰、景気の先行き等から、来客数が例年に比べて少なく、成約につながらなかった。
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・例年盆を過ぎると来客数、客単価共に上向いていたが、今年の夏は厳しい。8月のキャンペーンは、来客数はまあまあであったが、客単価は低かった。
住関連専門店（店長）	販売量の動き	・物価が上がり、客の買い控えがみられる。
高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・当店は郊外にあるため、飛び入りの客がほとんどない。そのため予約がないときは臨時休業するが、その回数が最近多くなっている。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年、宴会数が過去最大を記録した反動から、今年は前年比減となり、一昨年と同等になっている。宿泊は売上の減少が止まらない。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・競争激化による稼働率の低下、個人消費低迷による売上の減少が、レストラン部門の売上に影響している。景気は下向きである。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・予約の状況は、今までは木曜、金曜、土曜は大抵満室になっていたが、今年はなかなか埋まりが悪い。直近にならないと満室にならない。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・マイカー使用の自粛や、オリンピック観戦による出控えから、8月に入って予約件数が悪くなった。ファミリー客の動きも前年より鈍い。特に近郊の宿泊に影響が出ている。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月前半から中盤まで夏のいろいろなイベントがあったが、客の動きは非常に悪い。買物客が極端に少なく、夜の飲食関係の客も全く伸びなかった。
タクシー運転手	お客様の様子	・イベントがある時は非常に忙しいが、そうでないときは全く暇で、その落差が大きい。
通信会社（総務担当）	お客様の様子	・ガソリンや食品等の価格高騰から、消費者の買い控えがみられており、今後も景気は上向かない。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・あらゆる販売チャネルでの販売量が落ちており、市場に飽和感がある。
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・諸物価の値上がりの影響を受けて、客はレジャー関連の消費を抑える傾向にあり、来客数がやや落ちている。
競輪場（職員）	販売量の動き	・来客数は増加傾向にあるものの、発売額の増加が小さいため、客は買い控えの傾向にある。
美容室（経営者）	販売量の動き	・通常は春から夏の7、8月にかけておしゃれ産業も動きが出てくるが、夏の暑さによって景気も回復しないまま、中元商品も売れない状態が続いている。これといった対策もなく8月も終わろうとしている。
設計事務所（所長）	販売量の動き	・官公庁の工事もさることながら、民間の個人住宅等も冷え切っており、思い通りに仕事が受注できない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産の物件の問い合わせ数と成約率からみて景気は悪い。今月の問い合わせ数は極端に少ない。

	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・ガソリン価格高騰の影響か、住宅総合展示場への来場者数が減少傾向にある。
悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・小売業においては、例年であれば盆前は1年で2番目に大きい売上となる時期であるが、通常の平日よりも悪く、購買に全く結びついていない。
	商店街(代表 者)	お客様の様子	・ガソリン価格の高止まりや異常気象により、近郊からの来客数が急激に減少している。また食料品の値上がりが多品目に及び、消費者の財布のひもが一段と固くなっている。
	一般小売店[青 果](店長)	お客様の様子	・ここ数か月、嗜好品である果物の単価、買上点数ともかなり減っている。
	百貨店(営業担 当)	それ以外	・販売量、来客数は減り、単価も落ちている。7月はまだ中元ギフト需要があり、厳しいなかでも来店モチベーションがあった。8月は、バーゲンと秋物商品の立ち上がり、先行層の先買い等がある月であるが、全く商品が動かない。客は本当に必要にならないと買わず、厳しい状況である。
	百貨店(営業担 当)	それ以外	・店に隣接して430台の駐車場が出来上がった。来客数は前年比103%と増えているが、売上は前年実績に届かない。客の購買が非常にシビアになっている。
	百貨店(営業担 当)	来客数の動き	・8月前半は気温が高く、なかなか買物をしにくかったことが影響した。
	百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・先月までも非常に厳しい状況であったが、今月にきて更に厳しくなったことを実感する。先月までは、厳しいなかでも婦人服や雑貨、食料品、化粧品等、前年実績を確保する部門や商材が見受けられた。しかし、今月に入り、比較的手堅い消費である食品・化粧品などの必需品までもが厳しい状態になっている。
	百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・来客数よりも売上が悪いという状況が前年9月より続いている。今月も来客数は前年比2～3ポイント減なのに対し、売上は4ポイントほど下回っている。1品単価、客単価共に落ちており、客の慎重な姿勢が続いている。北京オリンピックの影響はあまりなかった。外商関係は若干厳しいという状況である。
	百貨店(営業企 画担当)	来客数の動き	・猛暑や豪雨の影響に加え、ガソリン、小麦、バター等の値上がりによる購買意欲の減退、北京オリンピック開催による購買機会の減少等で、来客数、売上は更に厳しい状況となった。
	コンビニ(経営 者)	単価の動き	・コンビニは大半の客が目的買いなので、景気の動向が客単価に現れ、客単価が落ちている。タスポ効果もそろそろ薄れてきている。
	コンビニ(販売 促進担当)	販売量の動き	・量販店は前年比102.6%、コンビニエンスストアは同94.5%、ローカルスーパーは同104.6%となっている。価格改定分を差し引いたら、ほとんど前年割れである。
	衣料品専門店	来客数の動き	・猛暑と豪雨で客足が遠のいたこともあるが、全体的に景気の先行きが見えないことも関係している。
	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・物価が全体的に上がっているため、客は心理的に買物をしぶっているようである。価格が高い、安い問題ではなく、買物自体を控えている。
	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・7～8月の気温上昇が来客数の減少につながっている。特に高齢者の外出控えは直接売上の減少につながった。また、7月末から盆前の1週間、商店街全体で売上イベントを実施したが、全く盛り上がりせず、空振りに終わった。
	衣料品専門店 (総務担当)	お客様の様子	・8月の売上は、紳士衣料は前年比7%減、ミセスは同4%減、ヤング物は3%減となった。宝飾品、着物も大幅減である。平常の来客数が減少し、単価も下がっている。夏物バーゲンでの来客数も2割ほど減少している。
	家電量販店(店 長)	来客数の動き	・毎月来客数が減少しているので、上向き傾向にはない。
乗用車販売店 (従業員)	それ以外	・単価の安い軽自動車や低燃費の1,500ccクラスの中古車ばかりが売れ、利益が上がらない。	
自動車備品販売 店(従業員)	お客様の様子	・客単価、来客数共に落ちてきている。県内の倒産件数も増えている。	

		その他専門店 〔書籍〕(店 長)	単価の動き	・生活必需品ではない本等はどうしても支出の最後の 商品となり、極力支出する金額も抑えられる。一度に 買上される冊数も減少気味である。
		ドラッグストア (部長)	来客数の動き	・回復の兆しが全くみえない。
		高級レストラン (専務)	来客数の動き	・街に人通りが少なくなり、繁華街が寂れている。客 単価も大分下がっている。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上が非常に悪い。人もお金も動いていないし、中 元商戦の盛り上がりは7月で終わってしまった。
		その他飲食〔居 酒屋〕 (店長)	来客数の動き	・来客数がめっきり途絶えている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・原油高騰のあおりで諸物価の値上げが続いている。 そのため、各企業とも経費節減がささやかれ、繁華街 への来客数が低迷し、当ホテルの来客数にも影響して いる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今年の夏ほどタクシーの動きが悪い夏は初めてであ る。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・客が携帯電話を買換えるサイクルが長くなってきて いる。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・3月より製品の一部値上げを行った、仮需要やその 他の影響か、すぐには売上には現れてこなかったが、 先月ごろから次第に売上高に現れてきた。
	変わらない	農林水産業(経 営者)	受注量や販売量 の動き	・中国産食品問題等による国産志向の高まりから、加 工メーカー用の納品は相変わらず好調である。ただ し、スーパー関連等は諸々の値上げで消費者の防衛意 識が強く、あまり伸びていない。
		農林水産業(従 業者)	受注価格や販売 価格の動き	・飼料価格が上がっているため、仕入価格がじわじわ 上がっている。
		窯業・土石製品 製造業(取締 役)	取引先の様子	・景気は良くなってはいないが、少しずつ燃料の高騰 が落ち着いてきており、中小企業の話の聞くと、大体 横ばいになってきたということである。
		輸送業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・前年に比べ、受注量及び出荷量が3~4割落ち込ん でいる。このような状態が長く続かなかで物価も上 がっており、この傾向はまだまだ続く。
		金融業(従業 員)	受注価格や販売 価格の動き	・会員の利用金額が前年比約10%減少しており、利用 者数も減少している。
		金融業(得意先 担当)	取引先の様子	・直近でも倒産件数が依然高止まりしており、かなり 厳しい状況が続いている。
	やや悪く なっている	一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・受注量を見ると、半導体、自動車関連の設備投資で 少し景気が悪くなっている。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・価格が30~40%位下がっている。売上も下がり、収 益性が低下している。燃料高が経営を圧迫している。
		輸送用機械器具 製造業(経営 者)	それ以外	・原油や原材料の価格高騰による物価上昇のため、す べての物やサービスが値上がりしている。しかし、そ の費用上昇分は客先には認めてもらえない。
		建設業(総務担 当)	取引先の様子	・前期の決算が終わり、銀行に融資の相談に行くが、 売上高に対する借入比率が高く、良い返事をもらえな い。以前の設備投資の借入が負担となってきた。売上 が低迷していることが原因である。
		輸送業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・値上げの影響で荷動きが非常に悪くなっている。
		通信業	受注価格や販売 価格の動き	・官公庁は競合が激しく、入札価格が採算に合わな い。民間は受注価格が安いいため採算性が悪く、受注に 苦労している。
金融業(調査担 当)		取引先の様子	・原油、原材料価格の高騰で企業の仕入価格が上昇し ており、増加運転資金の申出が増えている。一方で、 仕入価格上昇分の価格転嫁は進んでおらず、収益性は 厳しくなっている。	
金融業(営業担 当)		それ以外	・給与所得者を中心に消費者金融及びクレジット会社 のキャッシング等、高金利ローンを利用している個人 客が低金利ローン商品へ借り換えを申し込み、個人無 担保ローン残高は増加している。申込金額は100~300 万円が中心である。改正貸金業法と物価の上昇の影響 も考えられる。	

		不動産業	競争相手の様子	・大手マンション販売業者・大手デベロッパーの破たんや、それに伴う不良債権問題等も起きている。建築費上昇により販売価格を上げると売れず、売れないと価格を下げることとなる。売れ残りがあっても次を建てなければいけない、という状況である。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・暑さと北京オリンピックの影響で、人の動きがなかった。販売量がどこも厳しいようである。
		経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・焼酎の売上が下落傾向となった。より安価な焼酎に移行している。
		その他サービス業〔物品リース〕(従業員)	取引先の様子	・新規の引き合い件数が、取引先の設備投資の延期、中止などに伴い減少している。また、取引先の倒産や延滞等の件数も徐々に増加傾向にある。
悪くなっている		繊維工業(営業担当)	それ以外	・とにかく物が売れていない。安価な物を買っているショップなどは見直されているらしく、忙しい。その方面しか売れない。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・地方大手のゼネコンの倒産が相次いでいる。建築資材の高騰と確認申請の遅れも影響している。マンションの販売も不振続きの様子で、マンションデベロッパーも資金繰りが悪化している。そうしたなかで銀行の貸し渋り、貸しはがしがあり、更に状況が厳しくなっている。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	取引先の様子	・消費の低迷、天候の変動が影響し、商社からの今月の発注が悪く、前年の半分ほどしか受注がない。同業者も同じ状況で、大変苦慮している。
		鉄鋼業(経営者)	取引先の様子	・取引先において与信の問題が大きくクローズアップされており、今後デベロッパー・ゼネコンなどを中心に倒産が相次ぐことが懸念される。
		電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・電子部品向け金型は全般的に非常に落ち込みが大きく、前年の3～4割減で推移している。また、半導体装置向けの精密機械部品も動きが非常に悪い。大手企業、中堅企業共に減少しており、絶対量の確保が非常に難しい状況である。
		金融業	取引先の様子	・建設業、不動産業の倒産が増加している。そのため、現在営業中の企業に対しても倒産するのではないかと取引先が不安を感じている。また、これまで良かった製造業も今後の見通しは悲観的なケースが多い。
		金融業(営業職 渉外係)	取引先の様子	・サブプライムローン問題、資材・原油高騰のあおりを受け、企業業績は低迷している。特に不動産、マンション販売会社、建設業者の倒産が相次いでいる。パブル崩壊の再来に近い状態である。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない			
やや悪くなっている		人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・周辺からはあまり景気のいい話が出てこない。企業、個人のいずれも必要以上の投資をしていない。物価の上昇によるものである。
		人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・依然として派遣会社への注文は少ない。後任を必要とせず、今いる人数で対応する企業が多い。今後、人員削減する企業もありそうである。
		求人情報誌製作会社(編集者)	それ以外	・同業大手が九州地方版から撤退し、福岡に資本を集中させている。福岡都市圏での競争が一段と厳しくなった。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・広告出稿の減少がより一層顕著になってきた。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・原油高騰の影響が大きく、今後もマイナス要因となる。ある自動車関連業者の団体が、原油高騰への危機感に関する1ページの意見広告を新聞に掲載していた。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・7月の新規求人数は3か月前に比べて5.9%増加したが、前年比では21.3%減と12か月連続の減少である。下向き感が強くなっている。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月までの新規求人数は前年比減の状態が推移しており、数にして月平均200人近く、率にして5.9%の減少が続いている。雇用形態別に見ると、パート求人はわずかな増加となっているが、一般求人の減少幅が大きく、数にして月平均250人あまり、率にして11.7%の減少が続いている。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・オフィスの事務派遣に対する需要減が止まらない。九州に支店を構える企業の傾向として、九州地区の支店は営業関連のみの部隊とし、事務関連業務は関東、関西で集中管理をする仕組みを作り、支店等現場での事務作業を削減する動きになっている。一方で、コールセンター、受付センターなどコアではない業務をアウトソースする傾向が出てきている。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・内定している企業の内定取消しがみられる。
	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・求人・求職活動のピークを過ぎ、求人票の受理件数は3か月前と比べ大幅に下回った。前年比でも減少しており、採用側の求人意欲の低下が現れているものと危惧している。
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・派遣終了企業が続出している。各企業は人員整理をするため、まず派遣人数の調整を行っている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年8月は受注案件が少ないが、例年以上に事務系の案件が少なくなっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・転職者市場の求人数が急減している。インターネット・チラシ・新聞とも苦戦気味である。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数をみると、前月比では9.1%増となったものの、前年比では26.4%減と大幅に減少した。前年10月以降、連続して前年を下回っている。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数は7月に引き続き前年割れしている。需要減少、競争激化、価格下落傾向が同時に起きている。